

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|------------------|-----------|--|
| 事業所番号 | 2471200291 | | |
| 法人名 | 株k会社 パル | | |
| 事業所名 | グループホーム ゆめが丘 | | |
| 所在地 | 三重県伊賀市ゆめが丘4丁目2番1 | | |
| 自己評価作成日 | 平成 28 年 6 月 26 日 | 評価結果市町提出日 | |

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaijokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kihon=true&JigvosvoCd=2471200291-00&PrefCd=24&VersionCd=022 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|-------------------|
| 評価機関名 | 社会福祉法人 三重県社会福祉協議会 |
| 所在地 | 津市桜橋2丁目131 |
| 訪問調査日 | 平成 28 年 7 月 19 日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の体調管理、安全・安心に過ごしていただけるよう、全スタッフ一丸で取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

H28年4月から事業所の運営を引き継いだ新しい代表者を中心に頑張っている。代表者・管理者・職員・廃業した事業所の利用者も引き受けスタートした事業所である。何事も全員参加を目標に掲げ、理念作成・利用者のケア方針・地域との交流方法・市との相談など山積しているが、利用者が穏やかで健康に過ごしてもらえるようにと介護経験豊かな管理者・職員が笑顔で頑張っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項 目 | | 取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印 | | 項 目 | | 取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印 | |
|-----|--|-----------------------------|---|-----|---|-----------------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 運営を引き継いだばかりで、まだ、具体化できていない。早急に理念を具体化し職員皆で共有できるよう努める必要がある。 | 法人の理念とは別に事業所独自の理念を、職員も含め全員で作成中である。利用者全員が穏やかに健康に過ごしてもらいたいと思っている。 | 事業所の運営方針のもと、支援にあたって全職員の拠り所となる理念を作成し、共有実践されることを期待する。 |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 自治会に入っている程度で、日常的とは言えないので、交流していく必要がある。 | 利用者も地域住民の一員として、隣の病院受診や美容院へ出かける途中で地域の方と挨拶を交わしたり、立話をしたりしている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | できていないので、地域の方に活かす必要がある。 | / | / |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議を実施し、それを通じて、サービス向上に活かす必要がある。 | 運営を引き継いで数か月経過し、運営推進会議を実施する重要性は良くわかっているので、市の担当者と相談しながら少しずつ前向きに検討している。 | 事業所が目指す地域密着型サービスの理念に沿った運営の為にも、運営推進会議の開催と関係者への参加を求め、サービス向上および地域と密な運営が望まれる。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 協力関係が築けるよう努めている。 | 法人運営の引き継ぎに伴い、全ての件で相談に乗ってもらっている。又、生活保護者の利用者があるので、市と事業所間で相談事や情報交換するなど連携している。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | ホールのすぐ横が出入り口であり、安全のため施錠している。異食の可能性があり、室内に飾り物をしていない人もいる。こちらが安全のためにと考えていることも身体拘束に繋がっていることがあり見直しが必要である。 | 押し入れの私物をすべて投げ出す利用者に対して、押し入れに鍵をかけることは拘束になるか？など職員同士でケア会議の他、休憩時間まで話し合うこともある。言葉の拘束についても取り組んでいる。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 利用者の立場になり対応すれば、自ずと身体的・精神的にも虐待はおこらない。職員はまず心にゆとりを持って対応することが大切であると考えている。 | / | / |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 今現在は利用されている方はおられない。今後必要な方がおられたら、活用し支援したい。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 利用者や家族にとっては大きな決断となるため、理解をして頂けるように分かりやすく説明している。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 小さなことでも意見や要望を言って頂けるような雰囲気を作っている。 | 利用者・家族に何でも話してもらおう雰囲気作りを心がけている。利用者よりベットから起き上がる手すり取り付けの希望があり、話し合い反映させている。リビングのひじ掛け椅子も検討中である。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 職員に意見を求めることも多く、また職員も気が付いたことはどんどん言っている。 | 職員の意見や提案は多く、代表者や管理者に話しやすいルートになっている。職員会議も2回分けて行い、申し送りノートなどに記入し全員が確認している。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員の意見に耳を傾け、改善できることは改善していく。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 研修に行ける機会をつくり、参加していただいている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 他施設の人とも関わりを持つことで、自施設の改善すべき点や良い点に気づくことが出来ると考えている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 初期にこそ見守り心配りをきちんと行い、本人に安心して頂けるようにしている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 様々な事情で施設利用を決めておられ、中には申し訳なさが伝わってくるご家族もおられる。遠慮なく思いを言って頂けるようにしたい。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | まず体験入所を行い、その上で他施設へ変わられた方もおられる。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 利用者ではあるが人生の先輩であり、私たちが助けて頂いていることも多くある。持ちつ持たれつで支え合えると穏やかな時間も流れる。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 利用者にとっては御家族の存在は何より大きく、御家族という時の表情も違う。様々な事情や思いを理解し、いつまでも共に支え合えるようにしたい。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 施設入所になったからといって、途切れるものではない。可能な限り支援していきたい。 | 定期的に出かける銀行や理美容院の人たちとは、以前から顔なじみで良い関係が続いているので、途切れないように支援している。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者にも相性があり、自然と仲良くなる人もいれば、マイペースな方もおられる。職員が間に入ることで、円満な関係を築けることもある。常に見守りフォローすることで大切にしたい。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | フォローし支援していくようにしたい。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 普段から話をする中で話の中に思いや希望が出る。無理に聞き出すのではなく、日頃から関わり感じ取り知っていきたいと思う。 | 利用者との対話を大切と心がけ、輪の中心に入り聞くように努めている。耳の遠い人には聞こえやすい方で話すようにしたり、時間に余裕があれば居室での対話を支援している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 利用者を知ることで良いケアに繋がる。利用者や御家族から知る努力をしていく。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 把握するよう努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 職員一人一人が担当を持ち、話し合いをしながら介護計画を立てている。 | 日々の申し送りや毎日記入する介護日誌(業務日誌)を参考にしながらケア会議を行っている。又、職員一人が一人の担当を持ち、モニタリングしながら介護計画に参加し、6か月程度で見直しもしている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 同じ情報を共有しケアにあたることで、利用者に安心感を持って頂ける。また気づいたことは日誌やノートに記入したり声に出している。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 本人や要望に対してのフットワークはよいと思うが、もっと具体的に取り組む必要がある。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域資源の内容を知り、活かす必要がある。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 施設かかりつけ医に皆がかかっている。専門的な診察や治療が必要な方は個々にかかりつけ医以外で受診している。 | 今春入居した利用者を含め全員が協力医（かかりつけ医）である。隣がクリニックなので職員対応で散歩も兼ね受診に出かけている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 看護師の配置はありません。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 近隣のクリニックとの関係は日常的にあるが、病院関係者との関わりをもっと深める必要がある。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化・終末期に関して、もっと本人・家族の方の要望をしっかりと聴き、ホームとしての方針を見直す必要がある。 | 隣が医院なので将来は看取りも必要になると考えているが、医師・看護師・職員・その他との連携が大切であり、その時に事業所の出来る事・出来ない事を契約時に説明し、家族としっかりと話し合う方針である。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 実践力が、すべてのスタッフに備わっているとは言えないので、どのスタッフも対応できるよう取り組む必要がある。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 避難訓練を行っている。 | 年2回、春と秋に避難・通報訓練をしている。事業所運営の変更もあり、今後、消防署の協力も得て、緊急連絡網や役割分担表等の作成、および非常用食材などを準備中である。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 面会に来られたら自室で過ごされるが、中には御家族の希望で自室扉を開けたままにされることもある。 | 職員は利用者の排泄時の気遣いを重く受け止めたり、日常的な対話でも固有名詞を言わないように、その人が傷つかないように考えて支援に努めている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 思ったことを言いやすいような声掛けをしている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | こちらのペースにならないよう、本人のペースを大切にしている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 支援している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 食後におぼんを拭いて下さる方がおられる。 | 職員の手作り料理から配食業者に変更したが、バラエティーにとんだ食事と利用者が喜んでいる。誕生日には出来るだけ好きな特別食となっている。配膳・下膳・おぼんふき等、手伝えることは職員と一緒にしている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 一人一人の摂取量や食事能力を把握し提供支援している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後声掛けをし、一緒に口腔ケアを行っている。出来ることは見守りをし、本人にして頂いている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 綿パンツ・リハビリパンツ使用されている。自らトイレへ行かれるが、声掛けが必要な方・見守りが必要な方・介助が必要な方がおられ、個々に合わせた対応をしている。 | 数人の方が自分でトイレに行き自立しているが、排泄チェック表の他、表情・態度・行動などで察し、定時に声掛け誘導する支援を行っている。夜間は転倒防止も含め、4人がポータブルトイレを置いている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 便通を良くする薬を服用している方もおられる。逆に柔らかくなり過ぎる方もおられ、飲食物の量など加減している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 月・水・金の午前中に入浴している。利用者の希望に沿い、ある程度の順番は決まっているが柔軟に対応している。 | 週3回、午前中入浴を基本としているが、本人の希望時間を取り入れ支援する時もある。全員が喜んで入浴している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 昼寝をしない方もおられるが、なるべく休んで頂くよう声掛けをしている。夜間は眠剤を服用している方もおられる。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 一人一人がどんな薬を服用しているかを別紙に記入してある。2週間に一回は受診しているため、状態に応じて薬の変更や追加もある。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | たたみ物を一緒にして下さったり、体操や作品作りや歌を歌うなど、その人に合わせた過ごし方が出来るようにしている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 誕生日や母の日に御家族と外出した方もおられる。今後も外出の機会は増やせるようにしたい。 | 職員と利用者の関係が落ち着いてきたので、玄関先の外気浴から、社会資源の活用に近いお店(理美容院など)まで散歩に出かける支援を増やしている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 利用者にお金を所持して頂いていない。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 今のところはおられないが、支援していきたい。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節に合わせた作品作りをし、出来上がれば掲示し季節感を大切にしている。また温度調節はこまめに行っている。職員がバタバタと動き回らないようにも気を付けている。 | 台所から一望できる広いリビングは利用者全員の見守りができる他、アンティークの家具や形の違うテーブルが数席あり、利用者は好きな場所で食事や職員と対話するなどくつろげるように工夫がされている。壁には季節感漂う夏の花火の切り絵を飾っている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | それぞれ思い思いに過ごされている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 利用者一人一人に合う、居室づくりに取り組んでいる。 | 基本は全部持ち込みで、広い居室のみを提供している。カーテン・ベット・机・鏡・椅子などそれぞれがその人らしく馴染みの物を持ち込み、安心して暮らせるように工夫している。(ベットのみ前事業所備品を利用している) | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 見守りや声掛けを行い、なるべく本人のペースで過ごして頂けるようにしている。 | | |